4月22日（水曜日）「ダビデ（13）油断」

【新改訳 2017】

Ⅱサムエル記11•1－27

「ある夕暮れ時、ダビデは床から起き上がり、王宮の屋上を歩いていると、ひとりの女が、からだを洗っているのが……見えた。‥‥‥ダビデは使いの者をやって、その女を召し入れた‥‥‥。」（2-4節）

偉大な王であり、信仰の人と言われるダビデにも、1つの大きな罪がありました。それは姦淫の罪でした。部下の妻バテ•シャバを、部下が戦いに出ている間に召し入れ、夫である部下は前線に出して戦死させたのです。

① やはりダビデも1人の人間でした。どんな偉大な人でも、人間（生来、罪深い性質をもっている）としての弱さをもっています。完全な人はいません。

② その罪の性質は、人が油断した時に容易に、かつ巧妙に働きます。辞書を見ると、「油断」とは気を許して注意を怠ることとあります。

③ さらに罪には、1つの罪を隠すために別の罪を犯させる力があります。格言のように「油断大敵」です。自分の心を守りましょう（箴言4•13参照）。

～祈り～

主よ。私たちを、悪魔から、また肉の誘惑からお守りください。自らも心を守り、さまざまな誘惑に勝利できる者としてください。

【学びのために】

「魔がさした」ということばがありますが、どんな人間にも油断がある時、罪を犯す危険性はいつでもあります。ですから、いつも祈り、みことばを読み、御霊に導かれて生活することが大切なのです。